

国際・交流委員会 基本方針（案）

国際・交流室 国際・交流委員会
委員長 古賀 智博

1 昨今、高齢化や人口減少、地域格差による都心部への人財の流出などの影響により、国
2 外就労者や技能実習生の増加が予測されている中、多文化共生を目指した地域づくりに取
3 り組む機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受け入れ、地域に住み暮
4 らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と密接な交流を深め知
5 識を醸成していく必要があります。

6 まずは、諸先輩が1985年から継続されてきた姉妹J Cである社團法人台南市新營國
7 際青年商會との交流が本年度で38年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、相
8 互交流に関わる課題解決に取り組み、新たなる交流の発展を追求することに果敢に挑戦し
9 ます。そして、文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際交流とするため
10 に、個々においても友情が芽生える訪問事業を行い、一般社団法人佐賀青年会議所メンバ
11 ーに積極的な参画を促すとともに、国際意識を高める機会を創出します。さらに、国際化
12 が進む地域社会においても先導的挑戦をしていくために、身近に住み暮らす在留外国人の方
13 とレクリエーションを通じた交流事業を行い、互いが協力し合い地域貢献に取り組む関
14 係性を築くことで、活気溢れる地域づくりにつなげます。また、国内開催であるASPAC
15 嶠高石大会での近隣諸国との交流がどのようになされているのか、メンバーの理解を深
16 めるために、日本青年会議所等から発信される情報を集約した周知活動を行い、積極的な
17 参加を促し、友情を深め青年会議所活動の一助とします。

18 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動
19 を行い、一人ひとりの違いを柔軟に受け入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性
20 を活かした佐賀を創造していき、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、「銀鱗躍動」の
21 ように地域で勢いよく輝き続ける団体を目指します。

22

[事業計画]

- 24 1. 新營J C訪問交流の企画・運営（9月）
- 25 2. シニア総会の参加者支援（1月）
- 26 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 4. 例会の企画・運営（3月・11月）
- 28 5. ASPAC参加者への支援（6月）
- 29 6. 河川清掃（10月）
- 30 7. JCI世界会議参加者への支援（11月）
- 31 8. 会員拡大 拡大目標 委員会8名（全体40名）